

Maruyama River



兵庫県北部の豊岡盆地を緩やかに流れる円山川は、河口から16km付近までが汽水域です。円山川は現在でも多くの自然が残る河川ですが、昭和40年代半ばから始まった農地整備や治水対策の実施によって河川環境も変化しました。蛇行した河川は直線化されるとともに湿地が減少し、円山川と水田や水路とのつながりが低下し、生物の生息・生育環境の多様性が損なわれてきました。なかでもコウノトリは、昭和46(1971)年を境にこの地域で見ることができなくなりました。一方で、円山川は大雨により洪水被害が度々発生し、平成16(2004)年の台風23号では甚大な被害もたらされ、洪水に強い地域づくりのための「円山川緊急治水対策」が実施されることになりました。



円山川では、緊急治水対策との整合を図りながら、「コウノトリと人が共生する環境の再生を目指して」をテーマとした「円山川水系自然再生計画書」が平成17(2005)年に策定されました。



コウノトリ

円山川水系自然再生計画書では、「特徴的な自然環境の保全・再生・創出」、「湿地環境の再生・創出」、「水生生物の生態を考慮した河川の連続性の確保」、「人と河川との関わりの保全・再生・創出」を自然再生の目標として設定されており、コウノトリ等の多様な生物の生息できる環境の復元を目指した取り組みが計画されています。

河川管理者である国や県、学識者や地域住民からなる円山川水系自然再生推進委員会が開催され、様々な分野の視点からの意見交換、また理解・連携のもと自然再生の取り組みが進められています。現在は、高水敷に湿地を創出し、生物の生息状況をモニタリングしながら、今後の湿地形状について検討されています。円山川は、生物を指標とした自然再生事業の代表事例です。多くの市民団体の積極的な活動のほか、行政機関も県立コウノトリの郷公園を通じた活動を実施する等、流域全体でコウノトリをシンボルとした地域づくりが行われています。

- 県立コウノトリの郷公園 [平成11(1999)年設立]: コウノトリの野生復帰に向けた研究が行われています。コウノトリの保護、増殖を経て平成17(2005)年から試験放鳥が開始されました。平成19(2007)年には、野外での巣立ちが確認されています。